

甲府一高あおぞら会 年報 2022

# AOZORA

2023年2月26日発行(年1回発行) vol.8

〒252-0233 神奈川県相模原市中央区鹿沼台1-7-7  
おぐちこどもクリニック内 甲府一高あおぞら会  
ホームページ <https://ymkp.net/aozora/>



## 2022年の活動報告

甲府一高あおぞら会会長 露木和雄

昨年、私に起こった2つの「まさか」を報告させていただきます。1つは、会員の小林信秋（認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク（難病ネット））前会長が7月に74歳で、あおぞら共和国総支配人仁志田博司先生が11月に80歳でご逝去されたことです。小林さん、仁志田さんとは2022年3月に白州のあおぞら共和国に於いて難病ネットから当会への感謝状を頂いた際にお会いし、お二人のいつもと変わらぬ微笑みのお元気の姿に勇気を頂いたばかりでした。残念でなりません。2つ目は10月のヴァンフォーレ甲府のサッカー天皇杯獲得です。私が生きている間にこんな事が現実にかかるなんて…。今も日産スタジアムでのあの体の震えが忘れられません。皆様にとり「まさか」は何だったのでしょうか。昨年も含めこの数年、コロナ禍のもとで同窓会総会などのイベントが中止となり、新規会員の募集活動などに深刻な支障が生じています。この状況へのご理解を頂き、是非、皆様には今後も引き続き当会への厚いご支援をよろしく願いいたします。



前列左 小林信秋氏 右から2番目 仁志田博司氏



左 露木会長 右 仁志田博司氏

## あおぞら共和国の現状をこれから

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク 専務理事 福島慎吾

甲府一高あおぞら会の皆さまにおかれましては、長年にわたるあたたかいご支援をたまわりまして心より感謝申し上げます。2011年7月にスタートした“あおぞら共和国”は、山梨の皆さまからの大きな支えのもと、開発や建築に関連する部分の当初計画は、ほぼ実現したところでございます。今後は、難病や障害のある子どもとその家族が雄大な自然と触れ合いながら気兼ねなく過ごせる場所として、地元にお住まいの子どもたちやその家族の皆さまとの交流の場として、自然災害発生時の避難拠点としてなど、より多くの方々に楽しみやすさ、安心と安全を提供できる施設を目指すとともに、多くの方々に難病や障害のある子どもとその家族のことを知っていただける拠点としての機能も持ち合わせてまいりたいと思います。そのためには、北杜市との連携強化や、「あおぞらの森の里山づくり」などの環境整備、地域の皆さまとの交流イベントの開催を一層進めるとともに、建国開始から10年を超えた“あおぞら共和国”の既存の建物や施設の老朽化や経年劣化にともなう修繕費用の確保も大きな課題となります。

今後とも引き続きご指導、ご鞭撻をたまわりたくお願い申し上げます。

## 難病ネットのあおぞら共和国イベント

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク あおぞら共和国担当 青柳耕作

2022年に、あおぞら共和国で行われたイベントは下記の通りでした。コロナ禍ということもあり、感染状況を見ながら、感染防止対策や、換気などに留意し、小規模での開催になりました。

- ・2022年3月12日(土) 第2回たくさんイベント(オンライン開催) 注1
- ・2022年5月28日(土) 春の草刈りボランティア
- ・2022年9月24、25日(土、日) 秋の草刈りボランティア
- ・2022年10月9日(日) らくがきキッズParty
- ・2022年10月22日(土) チャリティウォーク(小規模)

注1：たくさんイベントとは？早春キャンプとRDD”あおぞら共和国”とらくがきキッズParty、星つむぎの村によるプラネタリウム、熱気球(今年は出来なかった)などのたくさんのイベントの同時開催を指します。

注2：RDDとは？Rare Disease Day (世界希少・難治性疾患の日)はより良い診断や治療による希少・難治性疾患の患者の生活の質の向上を目指して、スウェーデンで2008年から始まった活動です。日本でもRDDの趣旨に賛同し、2010年から2月最終日にイベントを開催しています。



## 難病ネットのおおぞら共和国関連イベント らくがきキッズParty

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク 田伏純子

10月9日(日) ASrid・RDD日本開催事務局と共に山梨県にあるおおぞら共和国にて開催しました。(協力:シミックホールディングス株式会社、株式会社リコペル、オーガニックライフハケ岳株式会社)(企画協力:中村キース・ヘリング美術館)

中村キース・ヘリング美術館のスタッフの方も加わって、ガラス窓に絵を描いたり、地面に絵を描いたり、塗り絵をしたり、子どもたちも大人も一緒に、日常ではなかなかできないたくさんのプログラムを楽しみました。スタージウェーバー家族の会や日本ダウン症協会山梨県支部芝草の会の方々も参加されました。地元の野菜の直売もあり、マコモダケの試食や凍らせたシャインマスカットとイチゴの串など美味しいオマケもありました。シミックホールディングス株式会社からは、大石社長以下社員の方も大勢参加され、大石社長とは『中村会長は甲府一高出身ですね』などとお話しました。何と上村北杜市長も飛び入り参加されました。



## 難病ネットのおおぞら共和国関連イベント アーティスト交流展

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク 小口弘毅

私が所属している元新生児科医の開業医で作る“赤ちゃん成育ネットワーク”で会報編集長をしていた時に、表紙絵としてこどもあるいは母子を描いた絵を探していた際、日本画家三橋節子さんの絵と生涯について書かれた哲学者梅原猛の本“湖の伝説”に出会いました。三橋節子さんは画家の命でもある右腕を悪性腫瘍のため切断して、その直後から二人の幼子の為に絵筆を左手に持ち替えて多くの名画を残し、肺転移の為に2年後の35歳で亡くなっています。私はご主人でやはり日本画家である鈴木靖将さんに遺作の表紙絵への利用許可を頂きました。2021年の秋に大津市の三橋節子美術館を訪れた際に今もご健在である、鈴木靖将さんにお会いしてお礼を申し上げます。鈴木靖将さんからダウン症など障害を持つ方々の絵の指導、そしてアート展の支援もされている事を伺いました。その中の一人であるダウン症のある山岡由佳様の画集も頂きました。それが縁となり今年になって山岡由佳様のご両親と連絡を取り、おおぞら共和国の交流棟にてアート展の開催を勧めたところ、トントン拍子に滋賀と山梨のダウン症の会が急接近し、10月22～23日の両県合同アート展が実現しました(右写真)。今後両県そしてダウン症のみならず、参加団体が増えていく事を願っています。



## おおぞら共和国でのボランティア活動の紹介

甲府一高おおぞら会実行委員 山本秀彦

2014年1号棟ロッジが竣工以来、難病ネットでは自然を利用した施設/設備の整備とその環境維持のため活動を行っています。ここではボランティアを主体としたその活動を紹介します。

☆草刈り:2014年から初夏と初秋に参加者を募集し、実施しています。サントリー工場、葉の会(埼玉の森づくり集団)、アラスン軍団、東京海上日動保険(株)、その他の会社及び、甲府一高おおぞら会からも参加しております。

☆薪割り:2号棟、3号棟、4号棟の薪ストーブ用の薪を、おおぞらの森の枯れ木、倒木等を、機械で割って作っています。

☆里山づくり:おおぞらの森があります。ここを、自然とふれあう森にしようと、‘夢’プロジェクト実行委員の畑さん達が中心になり、‘葉’の皆様の協力を得て、散歩道、メモリアル広場、ゲート、ウッドデッキ等の設計を行い、‘葉’、アラスン軍団、サントリー白州工場、その他の皆様のボランティア活動で、2022年末にはほぼ、第一段階の設計図の形になりました。この原動力となった、サントリー白州工場の皆様は、2021年から毎月第三水曜日の午前中のボランティア作業を、2021年には9回、2022年には9月までに5回行っています。

☆「おおぞら共和国」各ロッジの大掃除:甲府一高S44年卒の女性のグループがロッジの大掃除ボランティアを行っています。



**大森さんご家族** 今回、初めて利用させてもらいました！息子と出かける初めての場所はドキドキワクワク。事前に利用方法の案内や緊急時に対応してくれる医療機関の相談にもものづくさり、安心して当日を迎えることができました。息子は、24時間人工呼吸器を使用している寝たきりの15歳。案内して下さった棟は5号棟。スロープがありそのまま室内に入ることができて、そして最高に嬉しかったのは、介護用ベッドと介護用エアーマット、ガートルスタンドがあることです。いつもの泊まり旅行だと、私の要領が悪いのとベッドの高さが低く、身体の負担がたくさんあります。でも、今回はベッドサイドにバギーをつけて、息子がベッドに移動してコンセントを入れて、ちょっと体勢を整えたら完了！部屋の広さもあるので呼吸器や吸引器を載せたバギーがベッドサイドにあっても圧迫感がなし！あっという間に、息子の環境を整えることができました。息子も快適だったようで、親子でとても心地よい時間を過ごすことができました！小鳥のさえずり、自然と木の温もりに包まれ、部屋からの景色も好みでとてもほっこりできました。おまけに、夫婦のキジにお目にかかれ、癒やしの時間にもなりました。こんなに素敵な場所を作ってく下さりありがとうございます。心おきなく快適に過ごせるあおぞら共和国。本当にありがとうございました。

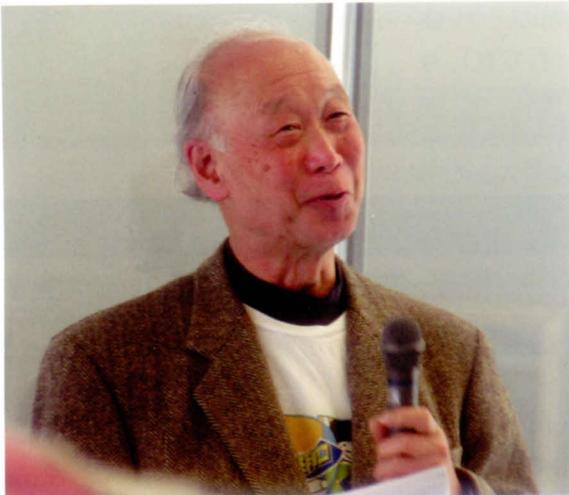


## 小林信秋氏（難病ネット前会長 7月逝去） ・ 仁志田博司氏（夢プロジェクト実行

### 小林信秋前会長を偲んで

甲府一高あおぞら会 実行委員 田伏純子

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク前会長の小林信秋さんが、2022年7月10日に急逝されました。小林さんを知る大勢の方々からたくさんの惜しむ声が聞かれています。改めて小林信秋さんの紹介をします。ご長男が、私の子どもと同じSSPE（亜急性硬化性全脳炎）を発症し、入院中に、主治医らから同じ病気の親の会を作る事を提案されて、家族会「SSPE青空の会」を作り、その後、「難病のこども支援全国ネットワーク」を立ち上げ、34年間運営してこられました。「自主訓練会たんぼぼ」や「SSPE青空の会」のサマーキャンプの経験から、難病のこども支援全国ネットワークでもサマーキャンプ『がんばれ共和国』を開始し、現



小林信秋氏

在では『がんばれ共和国』は全国7ヶ所で開かれています。その経験や、アメリカで俳優のポール・ニューマンが開設した『The Holle in the wall Gang Camp』に参加した経験などから、日本にも同じようなキャンプ場が欲しいと願い、それを聞いた篤志家が北杜市の土地を寄付してく下さって『あおぞら共和国』がスタートしました。小林信秋さんは、誰もが言う“あの”笑顔で多くの人を巻き込み、『あおぞら共和国』はびっくりするほどのスピードで、建物が次々と建っていきました。2014年にロッジ1号棟が完成した後たった5年で、ロッジ5棟、交流棟、kids BOX、屋外ステージ、浴室棟の合計9棟が建ち、延べ9,364人（2023年1月末）の宿泊者が宿泊したり、イベントを行なったりする”共和国”に育ちました。小林さん、そして小林さんの背中を押してあおぞら共和国を誕生させた仁志田先生、お二人の大事な方を亡くし、あおぞら共和国関係者は大きな痛手を受けていますが、その痛手の中、皆で力を寄せ合って、あおぞら共和国をさらに良い共和国にしていこうと決意を新たにしています。

### 仁志田博司先生の急逝を悼んで

甲府一高あおぞら会 実行委員 小口弘毅

会員の皆様に私から悲しいお知らせをしなければなりません。仁志田博司先生は11月29日に夫妻で九州旅行中（昔流行ったフルムーン？）に急逝されました。大きく優しい心を持った仁志田先生は無類の日本酒好きで、交際相手は広く、医療関係者を遥かに越えた多くの人々と楽しい酒席を共にしてきました。そして死の直前まで多くの新生児医療に携わる人々にエールを送り続けてくれました。慶應大学医学部を卒業した仁志田先生は、すぐに米国に渡り臨床トレーニングを受けました。1974年にジョンスホプキンス大学での留学を終え、米国新生児周産期専門医資格を取得し、意気揚々と帰国して、そのまま北里大学医学部に赴任されました。

。その一部は甲府一高あおぞら会からの寄付によるものです。(年報 2021 で報告)

**角倉さんご家族** 梅雨の晴れ間、家族3人であおぞら共和国を初めて利用させていただきました。息子は医療的ケア児で人工呼吸器を24時間装着し、自宅では電動ベッドを使っています。あおぞら共和国に新設された5号棟は、医療的ケア児が安心して使えるよう電動ベッド、サイドテーブル、リフト、点滴ポールなど完備されていることを知り、思い切って申し込みました。5号棟の真横に車を止められるので、荷物を運び込むのも楽ちんでした。車椅子の息子は木製スロープでテラスに上がって、広場に面した大きな掃き出し窓から出入りします。段差が全く無い家はテラスも出やすく、思う存分に外の景色を楽しめるので、雨が降っても大丈夫ですね。夜は、テラスに出て耳を澄ませ、静かな森の息吹を感じました。朝の散歩で、積み上げられた薪、動物の糞、虫、名も知らぬ野花、たくさんの発見があり、息子は目をまん丸にしながら体いっぱいにあおぞら共和国を堪能しました。屋外ステージに上がった時、「ここでiPadのGarageBandで演奏したい?」と息子に尋ねると、即YESの返事が。未来の息子のミニコンサートに夢を膨らませながら、帰路につきました。安心して快適に過ごせるあおぞら共和国、本当にありがとうございました。



## 委員長 (11月逝去) を偲んで

5年生の私は仁志田先生に出会い、新生児科医を目指し、それ以来師弟を超えた付き合いは半世紀にも及びました。1984年に東京女子医大の母子総合医療センター開設に伴い、請われて北里大学から移籍されました。北里大学ついで東京女子医大在任中に、多くの新生児科医を育てましたが、その枠を越えて仁志田先生の人脈は日本中に広がりました。新生児医療は正にチーム医療であり、先生は看護師の育成にも力を注がれ、1988年には「新生児学入門」を著し、現在まで日本中の新生児医療に携わる医師及び看護師に読み継がれています。その序に先生は次のような詩を書いています。少し長いですが引用します。「新生児に生きる：わたしは あなたへ 一生を ささげることになりました あなたは まだ 生まれて間もないのに いぶかしげな眼差しで わたしを見つめましたね わたしは あなたの瞳の奥に 長い間 探し求めていた 無垢の世界を 見たのです あなたは わたしに 思い出させてくれたのです わたしが かつては あなたであったことを そして 無垢の心を持っていたことを わたしは 叫びたい気持ちなのです あなたに生きることが わたしの天職である 幸せを」この詩を読み、私も新生児医療を選んで本当に良かった、そして小児科開業医として働く原点になったと改めて思いました。

先生は思索の人、実践の人でありそして行動の人でありました。私は30代前半にUCLA小児科医に留学した際に登山のみならず、マラソンに振り、帰国後40歳でサロマ湖100kmウルトラマラソンも走りました。その頃、先生にマラソンを走る様にそそのかしたのですが、何と50歳を超えていたにも関わらず、先生は一回でサロマ湖100kmウルトラマラソンを完走し、その後に女子医大定年直前に一念発起してローマからイスタンブールまで2500kmを、“優しい心を育む”をテーマに各地で講演しながら走ったのです。その余勢を駆って、キリマンジャロにも登っています。先生は半世紀前に米国留学していた時にマーチオブダイムに出会いました。

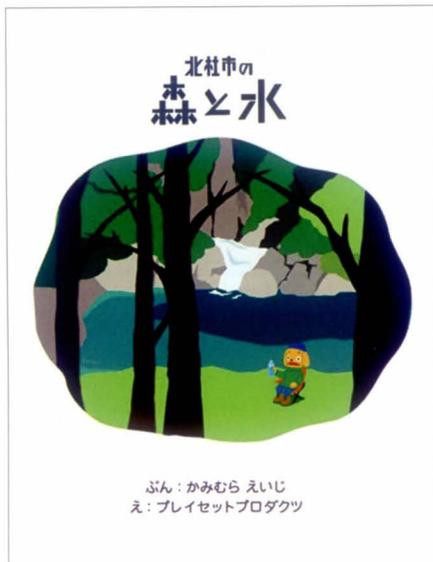


仁志田博司氏

1998年に難病ネットは白州の土地の寄贈を受けていましたが、仁志田先生の女子医大の定年退官を待って常設キャンプ場建設を託しました。先生は「長きにわたって新生児科医として働いてきたものの使命である」としてその大役を引き受けました。夢プロジェクト実行委員長を引き受けた際に、先生は広報および募金活動として日本版マーチオブダイムとして難病ネットの事務局のある日本橋から白州まで173kmを皆で歩こうと呼びかけ実行しました。先生のリーダーシップによりあおぞら共和国はほぼ完成していますが、詳しい経緯は「あおぞら共和国物語」に詳述してありますのでどうかお読み下さい。夢プロジェクトの大黒柱であった小林信秋さん、そして仁志田博司先生が逝去され、これからが正念場としますので、会員の皆様さらなる支援をお願い致します。

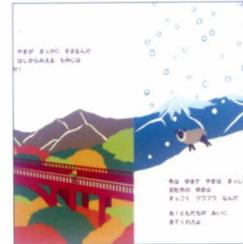
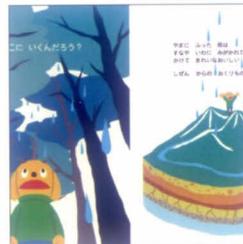
私は医学生の際に仁志田先生にお会いして以来、50年にわたってご指導を受けてきました。恩師であり、そして兄のように慕って来た仁志田博司先生の死を悼み、ご冥福を祈ります。

## あおぞら共和国のまわりの自然



### 北杜市長が書いた絵本で北杜市の自然の紹介ーホームページより

日本一の名水の里として知られる、山梨県北杜市を舞台にした絵本「北杜市の森と水」の編集・発行を担当させていただきました。ほのぼのとした文章は、北杜市長の上村英司氏、キャラクターをplay set productsが担当。自然豊かな北杜市の四季の移ろいや、雨が森や地面に降り注ぎやがて綺麗な湧水となる様子。また、工場でミネラルウォーターとなり、私たちの飲み水となるまでの過程を一冊にまとめました。



出版社：ネコパブリッシング 1,650円 <https://www.neko.co.jp/produce/hokutoshi>

## あおぞら共和国のご利用方法

みなさまのお知り合いで、あおぞら共和国を利用したい方はいらっしゃいませんか？『車椅子利用者だけど、のんびり家族で旅行したい』とか、『動き回る子なので一般のホテルは利用しにくい』とか…。あおぞら共和国ならその願いが叶います。あおぞら共和国は、「みんなの別荘」です。「別荘」なだけに、自炊・パジャマなど持参と制限もありますが、気兼ねなくロジ滞在が楽しめます。利用できる方は、①難病や障がいのあるこどもとその家族②その関係者や支援者③難病ネット会員（正会員・賛助会員・購読会員）です。詳しくは、運営している、難病のこども支援全国ネットワークの事務所（所在地：東京都文京区）にお尋ねください。

あおぞら共和国の所在地：山梨県北杜市白州町鳥原2913-134 HP：<https://www.nanbyonet.or.jp/infomation/kyouwakoku.html>  
電車でお越しの方：JR中央本線「小淵沢駅」よりタクシーで約10分 自動車でお越しの方：中央自動車道「小淵沢IC」より車で約15分

## Q&A 皆様からの質問と回答

質問事項、ご提案を事務局までメールでお寄せください。ホームページに回答を掲載し、一部は年報に掲載いたします。

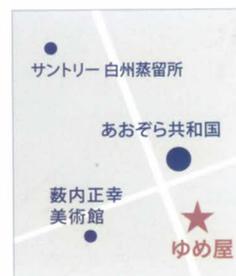
**Q** あおぞら共和国の宿泊・利用はどのように賄われているのでしょうか？

**A** 難病のこども支援全国ネットワークは、設立33年になる認定NPO法人です。事務所は水道橋にあります。電話相談室、全国7か所でのサマーキャンプ、親の会活動の支援、ボランティアの養成、シンポジウムの開催などを行い、病気や障がいのある子と家族の「いのちの輝き(QOL)」の維持・向上に努めています。それらの活動の一つとして、あおぞら共和国の建設・運営があります。宿泊・利用の費用は全て、難病ネットが負担しております（詳しくはP7参照）

## あおぞら共和国近くの『みどころ・あじどころ』 その7(毎号連載)

**ゆめ屋** あおぞら共和国から2分、  
農産物の産地直売のお店です。

ご主人が、味の良さにこだわって選別した県下の美味しいフルーツを販売しております。手頃価格のものから、高級なものまで取り揃えており、贈答品にも最適です。モモ、ブドウ、サクランボが人気です。自家栽培の無農薬野菜も販売しています。



〒408-0316 山梨県北杜市白州町鳥原2913-117 定休日火曜日、月・水～日9:00～17:00 TEL: 0551-35-51158

# 2022年甲府一高あおぞら会の会務報告(紙上総会)

2022年もコロナ禍のため、あおぞら共和国での活動が出来ず、総会も中止致しました。

総会が開催出来ない場合は、年報に、甲府一高あおぞら会の会務を報告し、総会に代えることといたしましたので、2022年も本報告にて開催とさせていただきます。なお現在の役員任期は2022年末までですが、次期役員は再任といたします。

## 1、2022年の活動 (2022年1月1日~2022年12月31日)

- ◆ コロナ禍により、あおぞら共和国での会の活動、イベントへの参加/支援、同窓会での活動は出来ませんでした。実行委員会は2回(内1回はオンライン)開催し、随時メールにての連絡で対応しました。
- ◆ 役員改選:2023,2024年の役員は再任とし本年報の8ページに掲載した体制で運営いたします。  
会則の「正副会長改選は総会で承認」は、3月締め切りで、賛否を事務局にいただき(賛成の場合は返信不要)、決定いたします。詳細報告はホームページに掲載いたします。

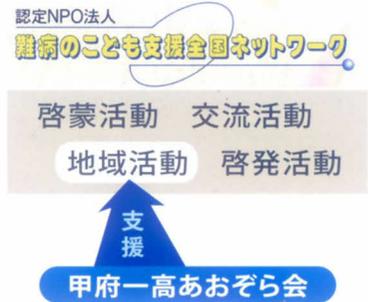
## 2、会計報告 会計 田伏純子 (会計期間は、2022年1月1日~12月31日となっております。)

- 1) 収入 = 合計1,808,355円 会費=1,008,000円 12月末の会員数437名 (会費納入者は336名)  
寄付金=800,355円 寄付金、会員の皆様からの個別の寄付金
- 2) 支出 = 合計 140,560円 事務費、支払手数料、通信費、広報費
- 3) 支援金 = 1,667,795円 収入より、支出を差し引いた金額をあおぞら共和国への支援金として“夢”プロジェクト宛に振込いたします。その用途につきましては難病ネット殿と相談させていただきます。

今までの支援金の累計額は 15,327,029円となりました。

## 3、甲府一高あおぞら会のあおぞら共和国支援と難病ネット活動について

- ◆ 難病のこども支援全国ネットワークの仕事(以下難病ネットと略記)難病ネットの活動は 1.電話相談や遺伝特別相談、ピアサポートなどの相談活動 2.岩手から沖縄まで全国7か所でのサマーキャンプ“がんばれ共和国”建国、親の会連絡会、サンタクロースの病院訪問などの、交流活動 3.子どもの難病シンポジウムや病弱教育セミナー、自立支援員研修会などの啓発活動 4.あおぞら共和国をはじめ積極的な地域活動を行っています。 <https://www.nanbyonet.or.jp/infomation/>
- ◆ 甲府一高あおぞら会は、上記難病ネットの4つの大きな活動の内、地域活動の「あおぞら共和国」の構築、運営、維持の支援を行っています。



## 会費納入(会員の更新)とお知り合いの勧誘(新規入会)及び、支援のお願い

年報AOZORAに同封しております、ゆうちょ銀行の振込用紙にて、会費納入(会員の更新)をよろしくお願ひいたします。

- ◆ 会費納入先: ゆうちょ銀行 口座名: 甲府一高あおぞら会 口座番号 001 10-9-323825  
2022年1月17日より、ゆうちょ銀行の赤色振込用紙(料金加入者負担)をお使いいただいても、現金で支払いを行う場合は、110円の費用を振込者が負担していただく(ゆうちょ銀行口座からの支払いは無料)こととなりましたことをご了解願ひます。その他の振込方法も振込手数料は自己負担となりますが、ホームページをご参照の上よろしくお願ひいたします。  
[https://ymkp.net/aozora/kaihi\\_nonyu.html](https://ymkp.net/aozora/kaihi_nonyu.html)
- ◆ 甲府一高同窓生に限らず、一般の方もご入会いただけます。ご友人等、ご紹介いただいた方に、事務局より、本会の紹介、加入申し込み用紙、会費振込用紙等をお送りいたします。事務局の連絡先は巻末のお問い合わせ先をご覧ください。
- ◆ 「あおぞら共和国」への支援は各種の方法で ([https://ymkp.net/aozora/aozora\\_sien1.html](https://ymkp.net/aozora/aozora_sien1.html))
  1. ゆうちょ銀行会費振込用紙で会費と寄付金を同時に納入頂く場合は、印刷された3,000円に取消線を引き、押印し、合計金額を上空欄部分に記載してください。その場合通信欄に明細(会費3,000円、寄付¥¥¥円)を記入してください。
  2. あおぞら共和国の建設・運営母体である認定NPO法人「難病のこども支援全国ネットワーク」の会員となつていただく。本会入会時にその旨お伝えくだされば、本会会費は免除としております。
  3. 個人名での随時寄付をご希望の方は  
ゆうちょ銀行 加入者名: みんなのふるさと夢プロジェクト 口座番号: 00140-5-472963 にお振り込みください。  
上記口座への支援は税法上の優遇処置の対象となり、確定申告時、税金の控除が受けられます。

## 私の仕事と交流棟での夏の日～まず目の前の一人の人に真心を尽くす～

甲府一高あおぞら会 実行委員 岡 亜佐子



私は甲府一高あおぞら会設立とほぼ同時期に、岡山に本部のある、日本看取り士会で看取り士の活動に携わり、最期を迎える方やご家族のもう一人の家族という立ち位置で傍に添わせていただいております。今年度より、志同じくする仲間と生活支援サービスと子供からご高齢の方の居場所づくりを始めています。いのちに長い短いはなく、どんないのちも等しい重さであり、また、生と死は同等の重さだと、逝く方々から死生観を教えてくださいました。人は肉体を手放し、いのちのバトンを周りの大切な人に渡して旅立っていきます。バトンを受け取った人たちは、そこから進化して生きていきます。ほんの60年程前の日本では、生も死も日々の暮らしの中に在り、自然に対しても畏敬の念も畏怖の念も持っていました。今の社会は人任せで人のせい。誰も“自分のいのち”の責任を取らなくなりました。この社会を創ったのは今を生きる大人たちの責任と感じています。『全ての人が最期、愛されていると感じて旅立ってる社会創り』これからの子や孫たち、若者の生きる社会が愛に溢れる世界であるよう、祈り願っています。

☆持留ヨハナさんに導かれた夏の日(交流棟での偲ぶ会)

8月13日。日本ではあちらの世界に還った方が、こちらの世界に戻ってきてくれるという日。北杜市在住であった、亡き持留ヨハナさんを偲ぶ会があおぞら共和国交流棟にて行うことが出来たことを紹介します。「昨年の葬儀はコロナ禍で、限られた方だけの参列だったので、どこか良い場所があれば…」と、ご主人の持留和也さんとお話の中、あおぞら共和国交流棟を紹介したご縁でした。話を聞いた管理人の青柳さんは施設を運営する難病ネットから、地元との交流に使用とのことで許可を取っていただきました。和也さんと息子さんのお二人で、ご家族ならではの手作りの偲ぶ会となりました。当日、日本全国から参列された130名の皆様と共に故人を感じ、偲ぶことができました。和也さんから今回、あおぞら共和国を使って下さった感想をいただきました。『2回下見や採寸に伺いましたが、公的な場所を借りていたら、こうはできなかった。事前に想定できることを提案してもらったり、コロナ禍の中でも面倒なことも言わず、懐深く受け入れてもらって感謝しています。規模も広く使いやすい場所で、とても良くしてもらいました。ありがとうございます。』

亡きヨハナさんご家族から、またひとつ大切なことを受け取らせていただいた祈りの一日でありました。今回のこの機会に、地元の北杜市のみならず全国の多くの方々があおぞら共和国に足を運んでくださったことに、そして亡き持留ヨハナさんに心より感謝申し上げます。



## 甲府一高あおぞら会 実行委員

2022年12月31日現在の甲府一高あおぞら会の実行委員は以下のメンバーです。(数字は甲府一高卒業年、Sは昭和、Hは平成です。) 実行委員を広く募集しています。山梨在住の方、50歳未満の方大歓迎です。



## 編集・発行・お問い合わせ

〒252-0233 神奈川県相模原市中央区鹿沼台1-7-7おぐちこどもクリニック内 甲府一高あおぞら会  
FAX:042-786-4132 ホームページ:<https://ymkp.net/aozora/> 事務局mail:[aozora@ymkp.net](mailto:aozora@ymkp.net)

## ホームページとフェイスブック

入会のお申し込み以外にも、活動の様子、草刈りボランティアやイベントなどの日程や詳細は、ホームページとフェイスブックにてお知らせしています。チェックしていただき、活動にぜひご参加ください。



←ホームページ

facebook →

